

第3回奈良ESD連続公開講座

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2020年7月27日(月)19時～21時
- ◇方法 ZOOMを用いたオンライン研修会
- ◇参加者
- ◇内容：ESDの学習理論と授業構想案のつくりかた

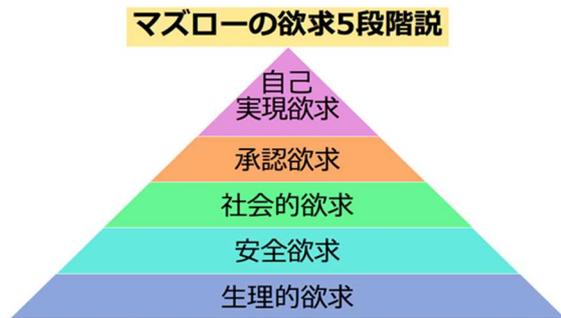
1. 持続可能な社会の創り手に育てたい価値観とそれを育む活動

- ①世代間の公正を意識する
- ②世代内の公正を意識する
- ③自然環境・生態系の保全を重視する
- ④人権・文化を尊重する
- ⑤幸福感に敏感になる。幸福感を大切にする。

A：利他的活動（ボランティア活動）
B：自然との交歓
C：人との交歓

2. 持続可能な社会の創り手を育てるための心理学的考察

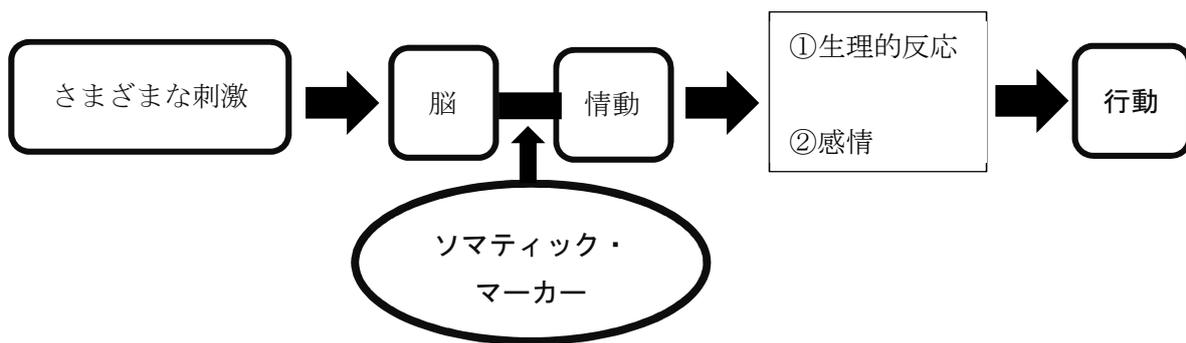
(1) 利他的活動（ボランティア活動）を促すために



マズローの欲求5段階説

承認欲求が満たされることで、「自分も世の中のために何かしたい」「人の役に立つことがしたい」という自己実現の欲求が促される。
 自己による承認と他者からの承認
 親・教員は子どもにとって「特別な他者」
 努力していることを見出し、承認・応援するという姿勢

(2) ライフスタイルを変容するために（ESDは価値観と行動の変容を促す教育）



- ・ソマティック・マーカー：脳内信号

その行動によってもたらされるかもしれないものに注意をむけさせるための信号

- ネガティブ信号 → 警報の役割
- ポジティブ信号 → 動因の役割

意思決定の正確さと効率に貢献する役割がある

- ・ソマティック・マーカーが情動のきっかけをつくる

「人は理屈で考えればやらない方がいいとわかっていることもするし、まったくナンセンスに思える

こともヒトの行動に大きな影響を及ぼすことがある。これは情動が理性を越えて行動を支配するからである。」(櫻井武)

- ・「われわれの多くが持っている自動化されたソマティック・マーカー装置は、教育により、その文化の合理性の標準に適応するものとなっている。つまり、ルーツは生体調節にあるにもかかわらず、その装置は特定の社会での生存を確かなものとする文化的規定に合うように調整されている。」(アントニオ・ダマシオ)
- ・ソマティック・マーカーを育てる
知識の網の目をつくる
繰り返し経験すること、繰り返し学習することで、網の目を細かくすることができる。

3. ESDの視点

見方・考え方	身の回りでよさの見つけ方	課題の見つけ方
①多様性	色々なものがある方がいい	多様性に乏しいのは問題だ
②相互性	つながっている方がいい	孤立している・循環していないのは問題だ
③有限性	ものには限りがある	もったいないのは問題だ
④公平性	世代内と世代間が考えられている	不公平なのは問題だ
⑤連携性	なかまはずれをつくっていない	何かを排除しているのは問題だ
⑥責任性	協力がある・やりとげている	責任転嫁、やりっ放し、言いつ放しは問題だ

①・②・③は主に自然環境・社会環境を評価するときの視点

④・⑤・⑥は主に人の営みや集団の意思決定を評価するときの視点

A：あなたの出身地のよさを多様性、相互性・循環性、有限性の視点から述べてください。

B：あなたの知り合いで公平性、連携性、責任性の視点から素晴らしい人を紹介してください。

4. ESDを通して身に付けたい資質・能力

クリティカルシンキング：物事を問い直し、新たな方法を見いだす力、代替案の思考力

システムズシンキング：物事を総合的・構造的にとらえる力、システムとして理解する力

長期的思考力：データに基づき、先のことを考える力

コミュニケーション力：意見を聞いたり、発信したりする力

協働的問題解決力：他の人と協力して最後まで取り組む力

アクティブ・ラーニングにおける子どもの意識の流れ

導入：ソマティック・マーカー 「なんだか腑に落ちない。気持ちが悪い。」

課題発見：クリティカルシンキング ◇課題設定と仮説の作成

調査活動（グループ学習）：コミュニケーション力・協働的問題解決力

話し合いと考察：長期的思考力・システムズシンキング・コミュニケーション力

行動化：協働的問題解決力

5. ESDの授業づくり

(1) ESDの授業を構想する際に考えたいこと

- ①見方・考え方を働かせることができるのか
- ②資質・能力を育てることができるのか
- ③どのような価値観を変革させようとするのか
- ④どのような行動化を求めようとするのか

それによって、SDGsの何を達成することに貢献できるのか

(2) 単元を構想する

具体的な授業をイメージできるかがポイント

- ・児童が発するであろう言葉や持つであろう意識をマップ化する。
 - ・単元の流れにあわせて子どもが考えること、行動することを時系列で示す
- それをもとにして、教員は①～④を説明できなければならない。

(3) 問いを考える

①重要な問いの質

- ・単元の目標にそうもの
- ・学習の流れの中で必然性のあるもの
- ・答えがいくつもあるもの

②発問で単元をデザインする

①単元を通して核となる問い

①を深めるための問い

①を発展的に考える問い

(4) 探究的な学びを協働的に行う

- ・質の高い問いをつくる教師の確かな教材解釈
- ・育てたい資質・能力、価値観など、ゴールの見通し
- ・「なぜ?」「どうして?」という問いを子ども達が自らつくることができるように

※協働的な学びには学級経営が重要

- ・どんな意見を言ってもいいんだという雰囲気
- ・「わからない」を素直に言える風土